

1. 趣旨

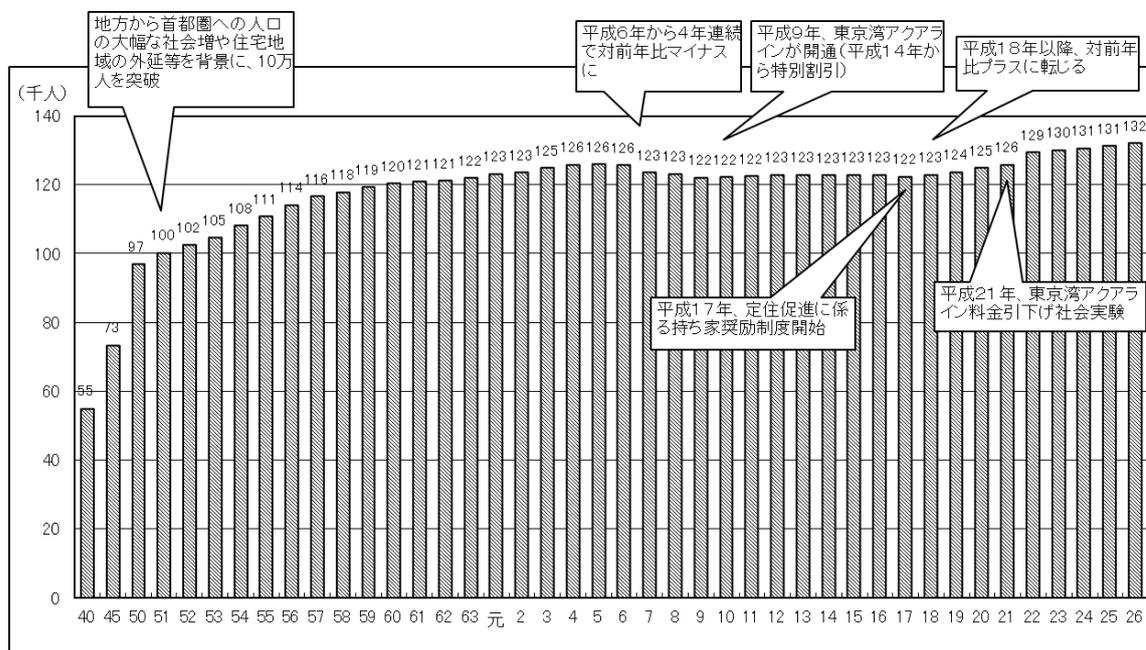
「木更津市人口ビジョン」は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）第10条の規定により、本市の人口について分析を行い、平成54（2042）年（市制施行100周年）を展望する中で、今後、目指すべき将来のまちづくりの方向と人口を示し、市民と認識を共有するもの。

2. 人口の動向分析

(1) 総人口・年齢3区分別人口

- 総人口は、平成18年に対前年比がプラスに転じ、その後、過去最高を更新し続けている。【図表1-1、図表1-2】
- 年齢3区分別にみると、老年人口（65歳以上）は増加しているが、生産年齢人口（15歳～64歳）及び年少人口（0歳～14歳）は、年々減少している。【図表1-3】

図表1-1 総人口の推移



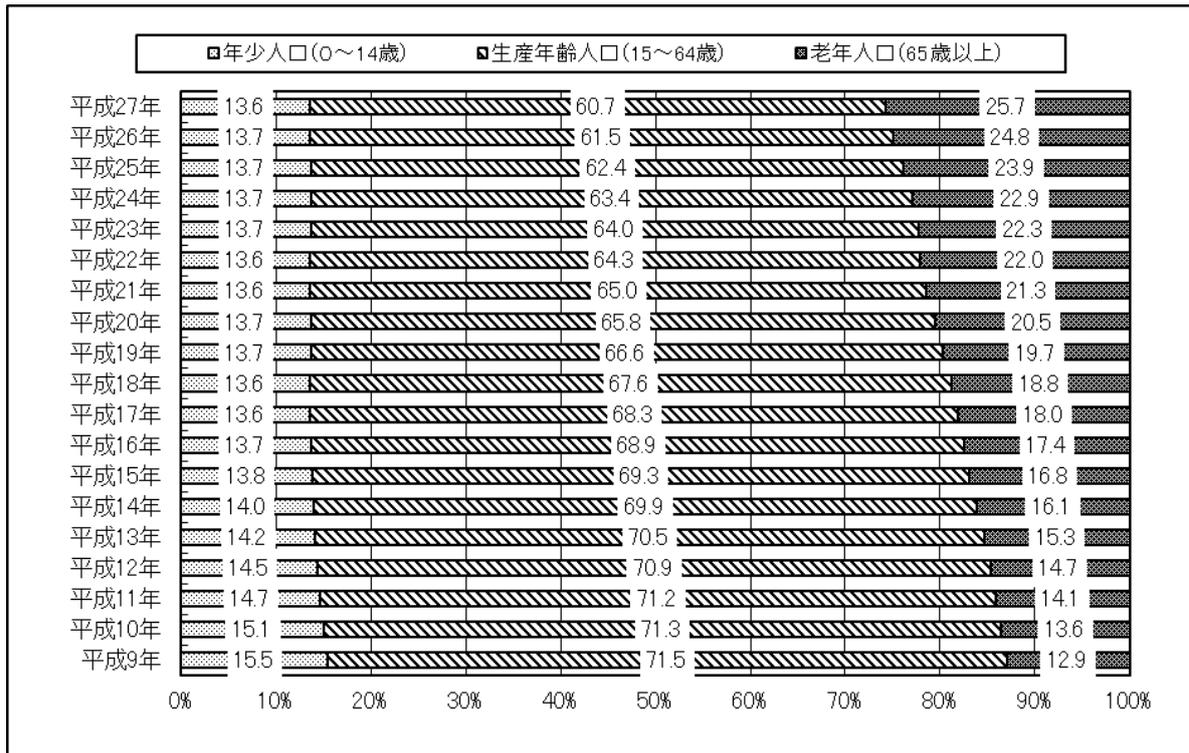
出典：木更津市統計書（各年10月1日現在の常住人口）

図表 1 - 2 総人口の推移 (増減数・増減率)

	S50 (1975)	51 (1976)	52 (1977)	53 (1978)	54 (1979)	55 (1980)	56 (1981)	57 (1982)	58 (1983)	59 (1984)	S50-59 増加数(人) 増加率(%)	
実数(人)	96,840	100,132	102,412	104,620	108,065	110,711	114,063	116,493	117,712	119,137		
増加数(人)		3,292	2,280	2,208	3,445	2,646	3,352	2,430	1,219	1,425	22,297	23.0
増加率(%)		3.4	2.3	2.2	3.3	2.4	3.0	2.1	1.0	1.2		
	S60 (1985)	61 (1986)	62 (1987)	63 (1988)	H元 (1989)	2 (1990)	3 (1991)	4 (1992)	5 (1993)	6 (1994)	S60-H6 増加数(人) 増加率(%)	
実数(人)	120,201	120,824	121,103	121,873	123,057	123,433	124,774	125,682	125,792	125,510		
増加数(人)	1,064	623	279	770	1,184	376	1,341	908	110	▲ 282	5,309	4.4
増加率(%)	0.9	0.5	0.2	0.6	1.0	0.3	1.1	0.7	0.1	▲ 0.2		
	H7 (1995)	8 (1996)	9 (1997)	10 (1998)	11 (1999)	12 (2000)	13 (2001)	14 (2002)	15 (2003)	16 (2004)	H7-16 増加数(人) 増加率(%)	
実数(人)	123,499	123,037	121,967	122,107	122,354	122,768	122,734	122,630	122,806	122,807		
増加数(人)	▲ 2,011	▲ 462	▲ 1,070	140	247	414	▲ 34	▲ 104	176	1	▲ 692	▲ 0.6
増加率(%)	▲ 1.6	▲ 0.4	▲ 0.9	0.1	0.2	0.3	▲ 0.0	▲ 0.1	0.1	0.0		
	H17 (2005)	18 (2006)	19 (2007)	20 (2008)	21 (2009)	22 (2010)	23 (2011)	24 (2012)	25 (2013)	26 (2014)	H17-26 増加数(人) 増加率(%)	
実数(人)	122,234	122,745	123,637	124,812	125,751	129,312	129,889	130,512	131,214	131,979		
増加数(人)	▲ 573	511	892	1,175	939	3,561	577	623	702	765	9,745	8.0
増加率(%)	▲ 0.5	0.4	0.7	1.0	0.8	2.8	0.4	0.5	0.5	0.6		

出典：木更津市統計書（各年 10 月 1 日現在の常住人口）

図表 1 - 3 年齢 3 区分別人口構成比の推移

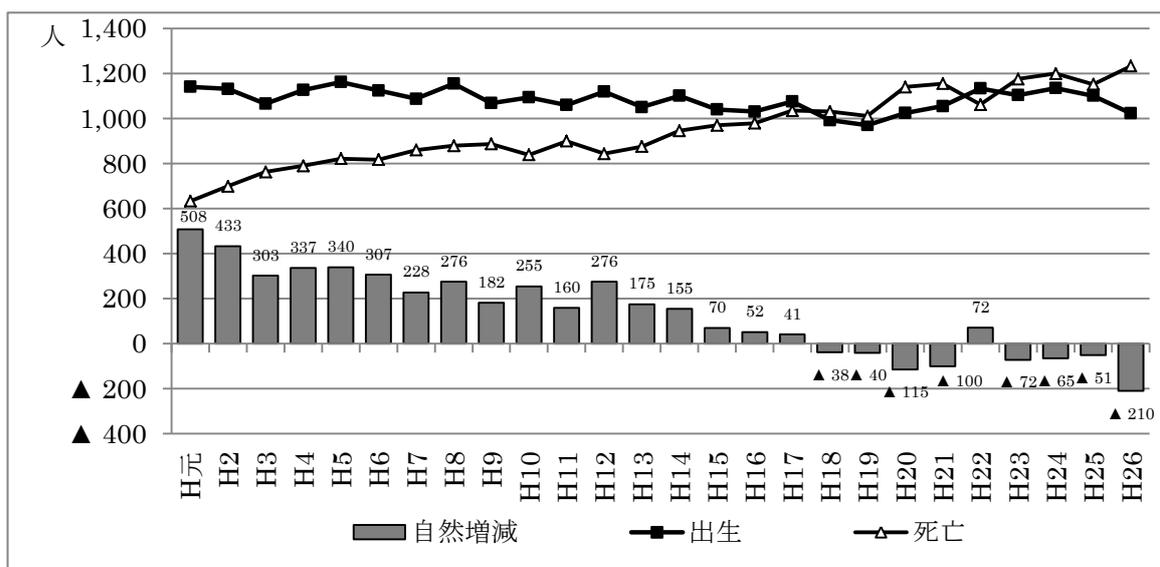


出典：木更津市「住民基本台帳人口（各年 1 月 1 日）※日本人のみ」

(2) 出生数・死亡数の推移（自然増減）

- 平成18年に自然減（出生数993人<死亡数1,031人）。
死亡数は増加傾向、出生数は横ばい状態。【図表2-1】
- 合計特殊出生率は、平成25年は県下1位。【図表2-2、2-3】
- 未婚率は、平成22年は昭和60年と比較すると男女とも増加している。
【図表2-4】

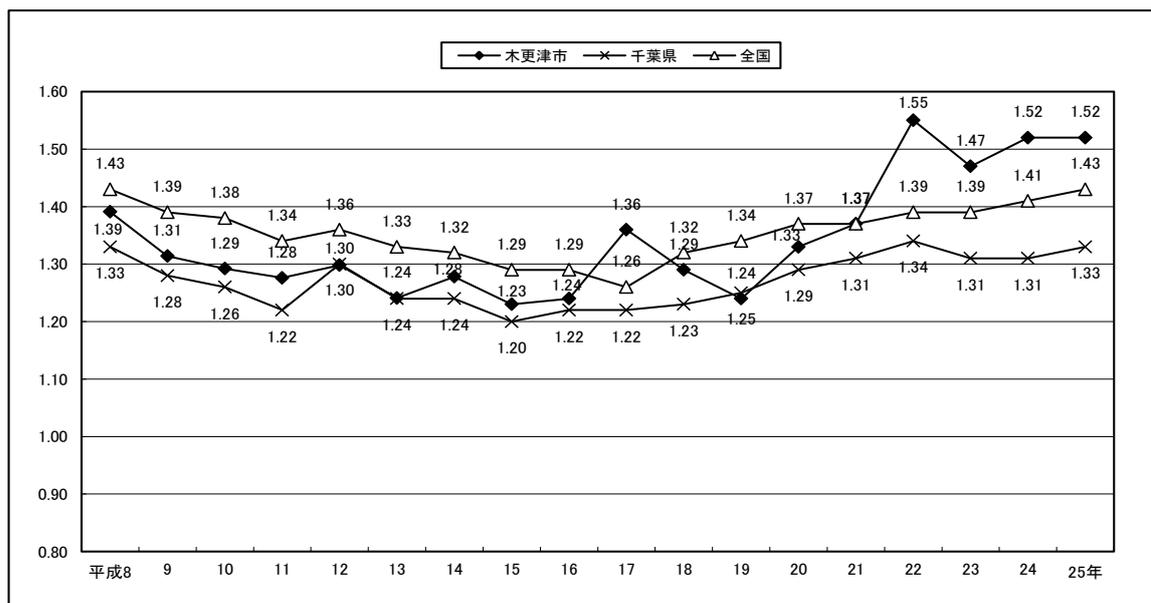
図表2-1 自然動態の推移



	自然増減	出生	死亡
H元	508	1,141	633
H2	433	1,132	699
H3	303	1,066	763
H4	337	1,127	790
H5	340	1,162	822
H6	307	1,125	818
H7	228	1,088	860
H8	276	1,155	879
H9	182	1,069	887
H10	255	1,094	839
H11	160	1,060	900
H12	276	1,120	844
H13	175	1,051	876
H14	155	1,101	946
H15	70	1,040	970
H16	52	1,031	979
H17	41	1,076	1,035
H18	▲ 38	993	1,031
H19	▲ 40	971	1,011
H20	▲ 115	1,025	1,140
H21	▲ 100	1,055	1,155
H22	72	1,134	1,062
H23	▲ 72	1,104	1,176
H24	▲ 65	1,135	1,200
H25	▲ 51	1,101	1,152
H26	▲ 210	1,023	1,233

出典：木更津市「住民基本台帳人口（1月1日～12月31日）」

図表 2 - 2 合計特殊出生率の推移（全国・千葉県・木更津市）



出典：千葉県「人口動態統計」

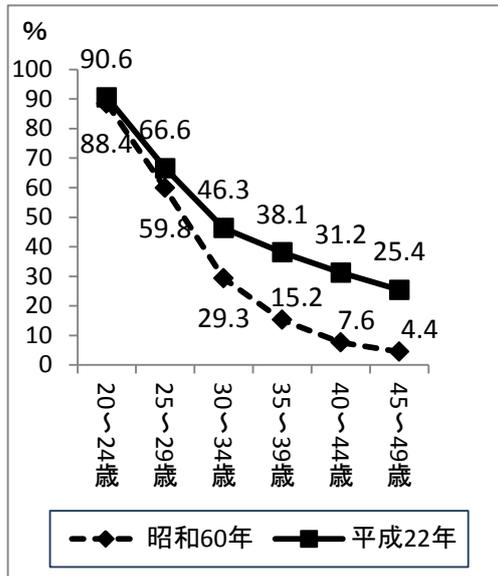
図表 2 - 3 合計特殊出生率の都市間比較（平成 2 5 年）

順位	市名	出生率	順位	市名	出生率	順位	市名	出生率
1	木更津市	1.52	14	松戸市	1.36	27	白井市	1.24
2	流山市	1.50	15	千葉市	1.35	28	いすみ市	1.23
3	君津市	1.48	16	習志野市	1.35	29	香取市	1.21
4	鴨川市	1.45	17	東金市	1.34	30	佐倉市	1.19
5	袖ヶ浦市	1.45	18	市原市	1.34	31	銚子市	1.15
6	旭市	1.44	19	鎌ヶ谷市	1.33	32	浦安市	1.11
7	四街道市	1.43	20	市川市	1.32	33	八街市	1.11
8	成田市	1.42	21	柏市	1.31	34	大網白里市	1.10
9	船橋市	1.39	22	印西市	1.29	35	山武市	1.08
10	匝瑳市	1.39	23	富里市	1.29	36	富津市	1.06
11	南房総市	1.38	24	我孫子市	1.27	37	勝浦市	0.89
12	館山市	1.37	25	野田市	1.26		千葉県平均	1.33
13	八千代市	1.37	26	茂原市	1.25		全国	1.43

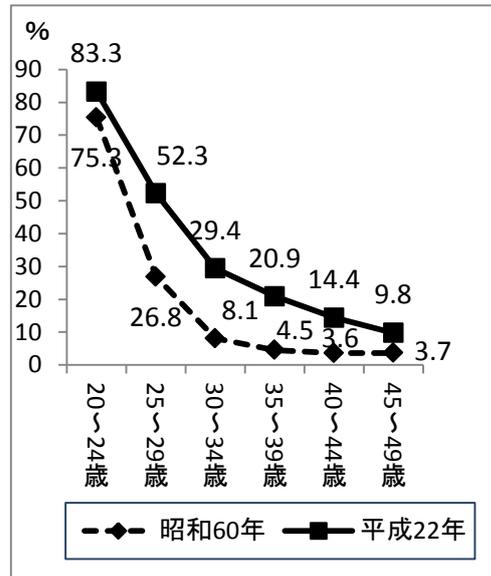
出典：千葉県「人口動態統計」

図表 2-4 未婚率の推移

未婚率（男性）



未婚率（女性）



出典：総務省「国勢調査」

(3) 転入者数・転出者数の推移 (社会増減)

○平成18年以降、転入超過が継続している。

転出数は減少、転入数は横ばい。【図表3-1】

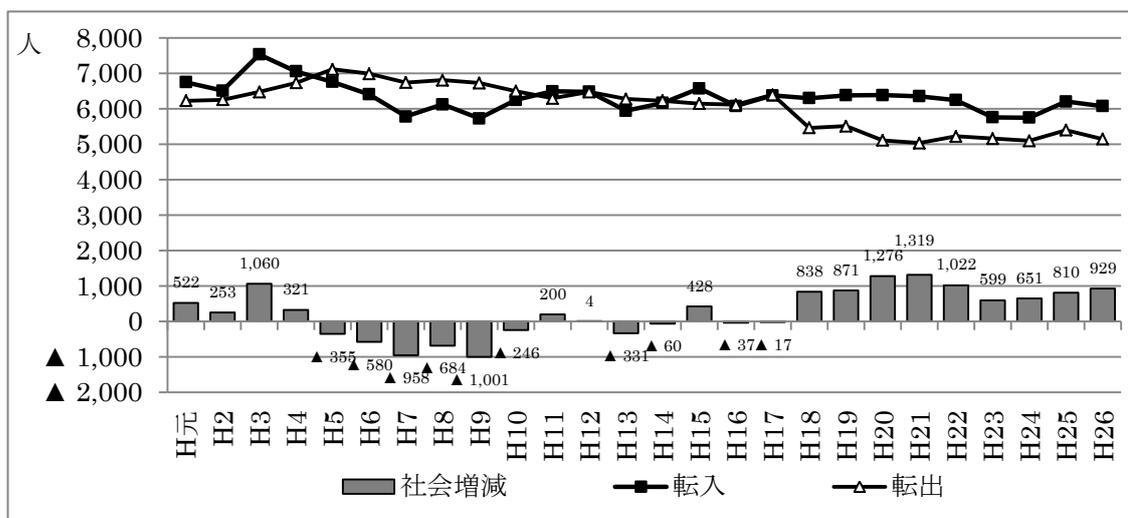
○10代後半から20代前半に、就職や進学等による転出が多い。

20代後半から40代前半の子育て世帯の転入が多い。【図表3-2】

○転入元や転出先の地域は、近隣市やアクアラインの対岸地域からが目立つ。

【図表3-3】

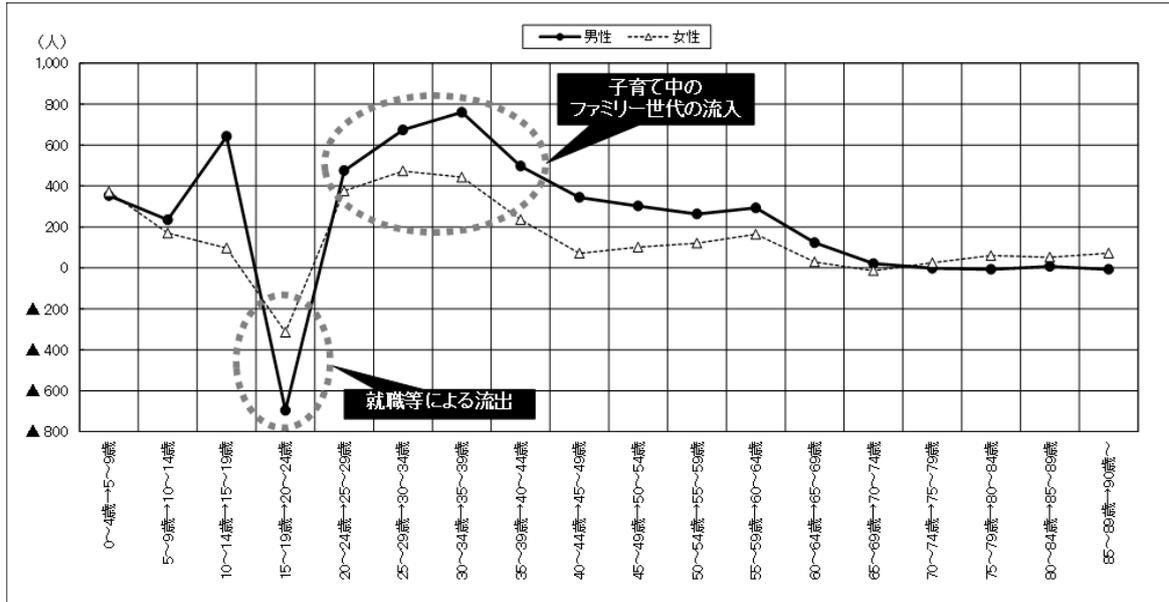
①社会移動の推移



	社会動態												
	社会増	転入						転出					
		計	県内から		県外から		その他	計	県内へ		県外へ		その他
	男	女	男	女		男	女	男	女	男	女		
元年	522	6,818	1,591	1,359	2,187	1,496	185	6,307	1,622	1,431	1,972	1,168	114
2年	253	6,406	1,543	1,266	2,064	1,405	128	6,098	1,594	1,449	1,776	1,185	94
3年	1,060	7,601	1,635	1,332	2,553	1,946	135	6,636	1,816	1,547	2,012	1,147	114
4年	321	7,051	1,525	1,268	2,360	1,782	116	6,661	1,755	1,575	1,932	1,365	34
5年	▲355	6,807	1,676	1,362	2,092	1,502	175	7,126	1,863	1,716	1,984	1,439	124
6年	▲580	6,400	1,609	1,311	2,003	1,365	112	7,017	1,925	1,750	1,952	1,314	76
7年	▲958	5,825	1,448	1,325	1,777	1,174	101	6,734	1,891	1,765	1,800	1,243	35
8年	▲684	6,033	1,581	1,322	1,794	1,216	120	6,720	1,783	1,588	1,859	1,407	83
9年	▲1,001	5,763	1,526	1,324	1,606	1,193	114	6,805	1,826	1,737	1,889	1,313	40
10年	▲246	6,228	1,603	1,382	1,843	1,305	95	6,493	1,859	1,506	1,734	1,192	202
11年	200	6,479	1,656	1,454	1,850	1,419	100	6,325	1,621	1,554	1,788	1,242	120
12年	4	6,384	1,599	1,452	1,689	1,516	128	6,445	1,653	1,548	1,821	1,394	29
13年	▲331	6,100	1,565	1,390	1,687	1,383	75	6,266	1,609	1,494	1,821	1,304	38
14年	▲60	6,117	1,641	1,442	1,700	1,248	86	6,271	1,724	1,459	1,680	1,345	63
15年	428	6,563	1,687	1,496	1,871	1,431	78	6,159	1,580	1,479	1,674	1,379	47
16年	▲37	5,986	1,575	1,383	1,652	1,272	104	6,048	1,416	1,373	1,757	1,361	141
17年	▲17	6,416	1,609	1,451	1,780	1,464	112	6,429	1,538	1,337	1,894	1,514	146
18年	838	6,361	1,708	1,499	1,779	1,304	71	5,439	1,367	1,256	1,475	1,093	248
19年	871	6,421	1,712	1,484	1,847	1,307	71	5,458	1,294	1,243	1,392	1,025	504
20年	1,276	6,332	1,540	1,408	1,953	1,390	41	5,106	1,292	1,089	1,271	907	547
21年	1,319	6,294	1,634	1,411	1,876	1,302	71	5,096	1,185	1,081	1,274	946	610
22年	1,022	6,307	1,645	1,503	1,758	1,326	75	5,196	1,187	1,066	1,313	1,002	628
23年	599	5,811	1,481	1,335	1,693	1,226	76	5,148	1,190	1,112	1,310	963	573
24年	651	5,716	1,601	1,331	1,596	1,102	86	5,130	1,224	1,110	1,354	942	500
25年	810	6,215	1,531	1,402	1,811	1,356	115	5,400	1,342	1,150	1,602	1,125	181
26年	929	6,034	1,538	1,286	1,774	1,298	138	5,143	1,332	1,173	1,446	1,020	172

出典：木更津市「住民基本台帳人口（1月1日～12月31日）」

②平成 17 年～平成 22 年の男女別 5 歳階級別の純移動数



出典：総務省「住民基本台帳人口移動報告」

③平成 26 年の転入元・転出先の上位 10 自治体（市全体）

	順位	転入		転出		順位	転入		転出	
		転入前 住所地	人数 (人)	転出先 住所地	人数 (人)		転入前 住所地	人数 (人)	転出先 住所地	人数 (人)
全世代 総数	1	君津市	784	君津市	521	1	君津市	37	君津市	27
	2	袖ヶ浦市	327	千葉市	421	2	横須賀市	19	千葉市	21
	3	千葉市	319	袖ヶ浦市	400	3	袖ヶ浦市	16	市原市	20
	4	市原市	295	市原市	308	4	市原市	14	袖ヶ浦市	11
	5	富津市	225	富津市	165	5	館山市	13	大田区	10
	6	横浜市	201	横浜市	147	6	千葉市	11	横浜市	6
	7	船橋市	130	船橋市	127	7	横浜市	8	館山市	5
	8	川崎市	109	川崎市	83	8	富津市	7	富津市	5
	9	館山市	89	大田区	71	9	鴨川市	6	(多数あるた め省略)	4
	10	横須賀市	73	市川市	51	10	南房総市	6		
20～24歳	1	君津市	101	千葉市	68	1	君津市	151	君津市	89
	2	千葉市	45	君津市	60	2	千葉市	60	袖ヶ浦市	78
	3	袖ヶ浦市	40	袖ヶ浦市	49	3	市原市	57	千葉市	77
	4	市原市	39	市原市	47	4	袖ヶ浦市	53	市原市	63
	5	富津市	30	船橋市	25	5	富津市	51	横浜市	30
	6	船橋市	20	横浜市	23	6	横浜市	32	富津市	28
	7	横須賀市	19	江戸川区	15	7	船橋市	30	船橋市	27
	8	横浜市	15	川崎市	15	8	川崎市	28	川崎市	13
	9	東金市	11	浦安市	14	9	世田谷区	18	大田区	11
	10	立川市	9	大田区	11	10	館山市	15	江戸川区	10
30～34歳	1	君津市	101	君津市	86	1	君津市	75	君津市	48
	2	袖ヶ浦市	55	千葉市	70	2	千葉市	40	袖ヶ浦市	39
	3	千葉市	46	袖ヶ浦市	59	3	市原市	33	千葉市	38
	4	市原市	46	市原市	35	4	袖ヶ浦市	29	市原市	25
	5	富津市	33	富津市	29	5	横浜市	25	横浜市	17
	6	横浜市	27	横浜市	21	6	富津市	24	船橋市	14
	7	船橋市	25	船橋市	16	7	船橋市	11	富津市	13
	8	川崎市	19	川崎市	15	8	市川市	9	川崎市	11
	9	館山市	15	柏市	10	9	川崎市	9	市川市	7
	10	成田市	10	成田市	8	10	大和市	8	川口市	6
40～44歳	1	君津市	65	君津市	34	1	君津市	38	袖ヶ浦市	20
	2	千葉市	25	千葉市	29	2	袖ヶ浦市	20	君津市	18
	3	袖ヶ浦市	23	市原市	24	3	市原市	16	千葉市	16
	4	市原市	18	袖ヶ浦市	23	4	千葉市	11	市原市	16
	5	横浜市	18	市川市	12	5	富津市	10	富津市	11
	6	富津市	14	富津市	11	6	横浜市	10	船橋市	5
	7	館山市	12	横浜市	7	7	館山市	7	新宿区	5
	8	川崎市	11	相模原市	7	8	鴨川市	6	横浜市	5
	9	柏市	8	船橋市	6	9	大田区	6	大田区	4
	10	船橋市	7	大田区	6	10	市川市	5	さいたま市	3

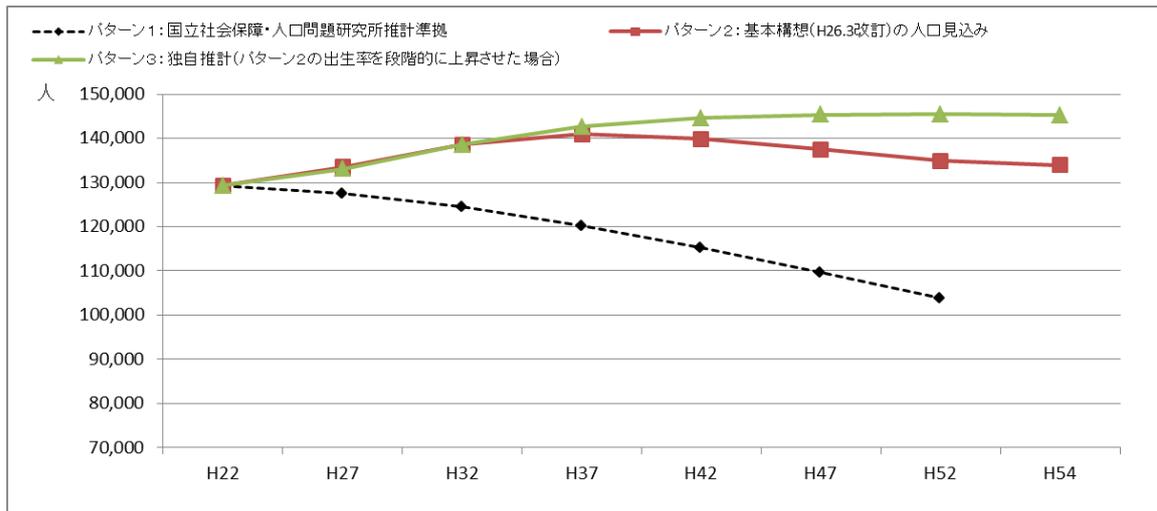
出典：木更津市「住民基本台帳人口（1月1日～12月31日）」

3. 将来人口の推計及び分析

(1) 将来人口の推計結果の比較

～以下、3つのパターンの比較を行う。～

- パターン1は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠したもの。
平成22(2010)年を基準年とし、平成27年頃には人口減少すると予測したが、実際には、2.9%の人口増。
- パターン2は、基本構想(H26.3改訂)の人口見込み。将来の合計特殊出生率は、平成23(2011)年の本市の出生率1.47に国立社会保障・人口問題研究所の将来出生率(低位推計)の対前年度伸び率を乗じたもの。移動率は、平成20(2008)年から平成25(2013)年までの高い移動率が10年間継続すると仮定。
- パターン3は、パターン2を平成27(2015)年に時点修正を行い、国の長期ビジョンにおける合計特殊出生率の目標値【平成42(2030)年に1.8、平成52(2040)年には2.07程度まで上昇】に設定したもの。【詳細は下図表】



		2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2042年
		H22	H27	H32	H37	H42	H47	H52	H54
パターン1: 国立社会保障・人口問題研究所推計準拠	実数(人)	129,312	127,426	124,435	120,270	115,254	109,666	103,874	-
	増減率(%)	-	▲ 1.5	▲ 2.3	▲ 3.3	▲ 4.2	▲ 4.8	▲ 5.3	-
	対H22年指数	-	99	96	93	89	85	80	-
パターン2: 基本構想(H26.3改訂)の人口見込み	実数(人)	129,312	133,506	138,530	140,976	139,814	137,499	134,944	133,933
	増減率(%)	-	3.2	3.8	1.8	▲ 0.8	▲ 1.7	▲ 1.9	▲ 0.7
	対H22年指数	-	103	107	109	108	106	104	104
パターン3: 独自推計(パターン2の時点修正+国の仮定した出生率)	実数(人)	129,312	133,064	138,551	142,649	144,610	145,328	145,464	145,263
	増減率(%)	-	2.9	4.1	3.0	1.4	0.5	0.1	▲ 0.1
	対H22年指数	-	103	107	110	112	112	112	112

出典：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成25年1月推計)」

注1) 全パターン H22 は国勢調査の値。パターン3の H27 は住民基本台帳人口(1月1日)の値。
2) パターン1・2は H27 以降、パターン3は H32 以降が推計及び見込。

(2) 将来人口の分析

- パターン2では、平成20(2008)年から平成25(2013)年までの高い移動率が10年間継続すると仮定した結果、平成38(2026)年をピークに減少に転じると見込んでいる。
- パターン3では、パターン2を平成27(2015)年に時点修正を行い、合計特殊出生率を国の目標数値に合わせる政策的な要因を加味した結果、平成52(2040)年まで人口減少を抑制できる。
- このことから、将来における人口減少を阻止するためには、「社会増の継続」と「自然増への転換」を並行的に実現させる必要がある。

4. 人口の将来展望

(1) 将来展望に必要な調査・分析

- 将来展望にあたって、市民の結婚・出産・子育ての希望や、転入・転出に関する意識調査を実施。
- 調査結果を分析し、目指すべき将来の方向につなげる。

(2) 目指すべき将来の方向

- 東京湾アクアラインにより東京都心に近接し、優れた交通機能や居住機能、商業・教育・文化等の都市機能がバランス良く展開する一方、豊かな自然環境や里海・里山と共生することのできる、本市が有する強みや多様性、地域資源を活かした施策を展開するとともに、多様なライフスタイルを実現できるまちとして訴求力のある情報発信を行い、また、国の政策に呼応することにより、人口増加のトレンドの維持をめざす。
そのため、地方創生に向けたまちづくりを進めるため、次の3点を重点項目とする。
 - ①若い世代が安心して子育てできる環境を充実させ、出生率を更に高める
 - ②雇用の創出と通勤・通学や生活の利便性を高め、若い世代の転出を抑制する
 - ③東京に近接しながら豊かな自然と共生できる本市の強みを活かした、移住・定住の促進をする

(3) 将来人口

○前項の3点の重点項目を達成し、かつ、将来の合計特殊出生率が国の目標水準である、平成42年(2030)年に1.8、平成52(2040)年に2.07へと上昇すると、市制施行100周年である平成54(2042)年にパターン3で示した14万5千人程度の総人口が推計される。